



実用新案登録願

昭和 54 年 5 月 21 日

特許庁長官 熊谷 善二 殿

1. 考案の名称 ^{フリガナ} パリコンの ^{トリッ コウノ} 取付け構造
2. 考案者 ^{フリガナ} 住 所 (居所) ^{サカドヒガサカド} 埼玉県坂戸市東坂戸1丁目7番地602号
^{フリガナ} 氏 名 ^{ナガ} 永 ^{スマ} 沼 ^{ケン} 健 (他 名)
3. 実用新案登録出願人 ^{フリガナ} 住 所 〒115 東京都大田区東青谷二丁目1番17号
電話 (727) 1161
^{フリガナ} 名 称 (308) ^{トウ} 東 ^{ミツ} 光 株式会社
^{フリガナ} 代 表 者 ^{トイ} 樋 ^タ 田 ^{マコト} 定 (他 名)
4. 添付書類の目録
(1) 明細書 1 通
(2) 図 面 1 通
(3) 願書副本 1 通
(4) () 通

明 細 書

1. 考案の名称

パリコンの取付け構造

2. 実用新案登録請求の範囲

合成樹脂から成るパリコンのカバーに、複数の係止片を一体に成形して設けたことを特徴とするパリコンの取付け構造。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、小形パリコンのプリント基板への取付け構造に関し、製造の容易なパリコンの取付け構造を提供しようとするものである。

従来は、小形パリコンをプリント基板に仮止めするのに、パリコン本体から引き出した金属のアース板をくの字形に成形して、これをプリント基板に係合させるようにしていた。しかしながら、固いアース板を屈曲する作業は手数がかかり、高価となる欠点があつた。本考案はこのような従来の欠点を解消しようとするものである。以下、その一実施例につき、図面とともに説明する。

第1図及び第2図において、1はロータ板2を

固着したロータ軸であり、ロータ軸1は前面基板3と後面板4に挟持されて回転自在となるように取付けてある。5は支柱6に固定したステータ板で、6aはステータ板5に接続して導出した端子である。7はバリコン本体を被り合成樹脂から成るカバーで、7aはカバー7に一体に形成した鉤状の係止片である。8はバリコンが取付けられるプリント基板であり、プリント基板8における8a・8b・8cは、それぞれ、ロータ軸1・係止片7a・端子6aを挿通するための孔である。

合成樹脂から成る二つの係止片7aは可撓性を有しており、係止片7aの先端を孔8bに差し込んだとき、係止片7aは、孔8bの周辺に鉤部が当接して一旦たわみを生じて変形する。そして、さらに孔8bの奥まで差し込み、鉤部が孔8bを貫通すると、係止片7aは、それ自身の弾性によつて元の状態に戻り、第3図に示すようにプリント基板8と係合する。このようにして、二つの係止片7aによりバリコンをプリント基板8に仮止めした後、端子6aをプリント基板8に半田付けすることによつ

て、バリコンの配線接続及び固定がなされる。

なお、係止片7aは、プリント基板8に対して係合するように突起を有するものであればよく、その形状及び個数は任意のものを適宜選択し得る。

上記の実施例から明らかなように、本考案によるバリコンの取付け構造は、バリコン本体を被り合成樹脂から成るカバーに複数の係止片を設け、バリコンをプリント基板に半田付け固定するまでの仮止めを、これらの係止片によつて行なりようにしたものである。

本考案によれば、合成樹脂のカバーを成形するだけで容易に取付けの確実なバリコンが得られる。また、どのようなタイプの小形バリコンも、本考案によるカバーに交換するだけで、簡単にいわゆる自立型に変えられるという実用的な効果を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案による取付け構造を具えたバリコンの斜視図、第2図は同バリコン及びプリント基板の一部断面正面図、第3図は同バリコン要部

公開実用 昭和55-167648

○断面正面図である。

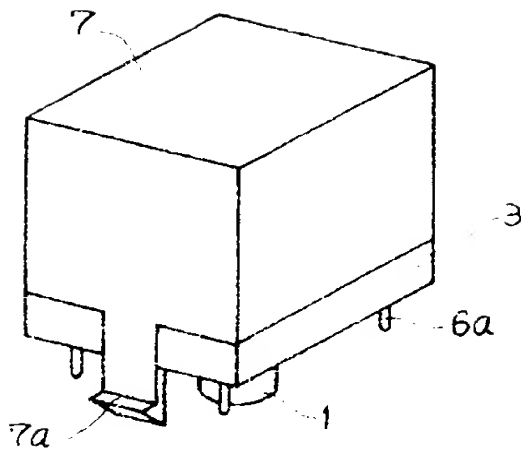
7 …… カバー , 7a …… 係止片 ,

8 …… プリント基板 , 8b …… 孔

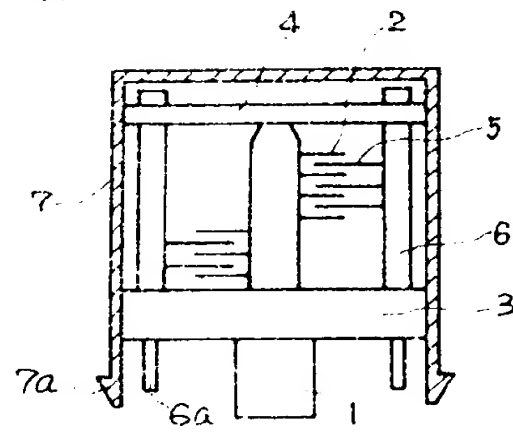
実用新案登録出願人

東光株式会社

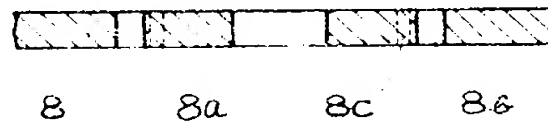
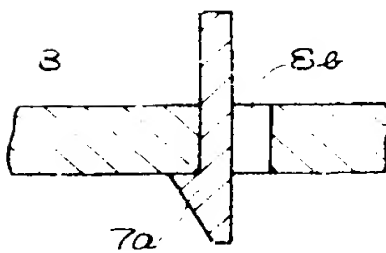
第 1 図



第 2 図



第 3 図



實用新案登録出願人

榮光株式會社